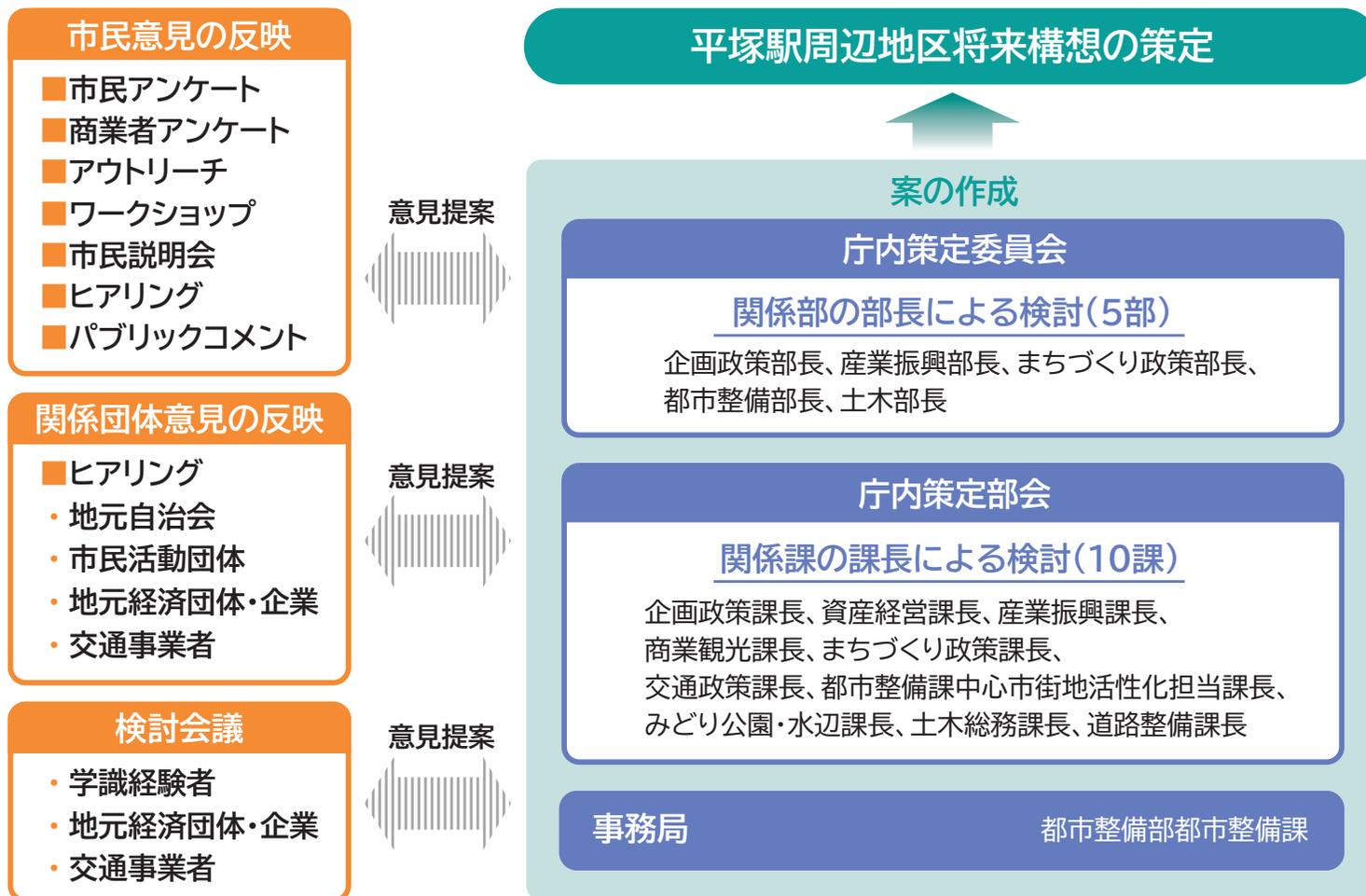


資料編

策定体制



策定までのあゆみの詳細

■ 市民意見の反映経緯

項目	概要
市民アンケート	18歳以上の市民から約3,000人を無作為抽出し、郵送によりアンケートを配布し、返送およびインターネット回答で実施 ○実施期間：令和4年(2022年)8月22日(月)～9月5日(月) ○回答数：848件
事業者アンケート	平塚駅周辺地区区内全24商店会の加盟会員642名を対象に、商店会を通じアンケートを配布、回収で実施 ○実施期間：令和5年(2023年)2月14日(火)～3月3日(金) ○回答数：227件
アウトリーチ①	平塚駅周辺地区の20年後の未来の方向性をイメージしたパネルを展示し、参加者が必要と考える機能にシールを貼付 ○実施場所【開催日】 ・ラスカ平塚【令和5年(2023年)1月11日(水)】 ・ららぽーと湘南平塚【令和5年(2023年)1月12日(木)、13日(金)】 ・平塚市中央図書館【令和5年(2023年)1月22日(日)】 ・平塚農商高校【令和5年(2023年)1月27日(金)】 ・ひらつか産業 FES【令和5年(2023年)2月23日(木・祝)】 ○参加者：354名
ワークショップ	平塚駅周辺地区の商店会及び自治会の会長を対象に、平塚駅周辺地区の主な通り、広場・公園、駅前広場のコンセプトや空間イメージについて意見交換を実施 ○開催日：令和5年(2023年)9月28日(木) ○参加者：18名

項目	概要
ヒアリング	将来の平塚駅周辺地区での過ごし方(ライフスタイル)について、中学生、高校生、大学生、市民活動団体、新規企業者などにヒアリングを実施 ○開催日：令和5年(2023年)9月～11月 ○参加者：7団体
アウトリーチ②	ライフスタイル、ランドデザイン、まちづくりイメージについてパネルを展示し、展示内容について紙及びWEBでアンケートを実施 ○実施場所【開催日】 ・平塚市役所【令和6年(2024年)2月5日(月)】 ・ラスカ平塚【令和6年(2024年)2月6日(火)】 ・ららぽーと湘南平塚【令和6年(2024年)2月7日(水)】 ・ジアウトレット湘南平塚【令和6年(2024年)2月8日(木)】 ・崇善公民館【令和6年(2024年)2月23日(金・祝)】 ○参加者：208名
市民説明会	ライフスタイル、ランドデザイン、まちづくりイメージについて説明し、意見交換を実施 ○開催日：令和6年(2024年)2月9日(金) ○参加者：15名
アウトリーチ③	将来構想の素案について展示し、展示内容について紙及びWEBでアンケートを実施 ○実施場所【開催日】 ・紅谷パールロード【令和6年(2024年)8月17日(土)】 ・ラスカ平塚【令和6年(2024年)8月23日(金)】 ・平塚市中央図書館【令和6年(2024年)8月25日(日)】 ・平塚市役所【令和6年(2024年)8月27日(火)】 ○参加者：123名
パブリックコメント	将来構想の素案について市民意見を募集 ○募集期間：令和6年(2024年)11月15日(金)～12月16日(月) ○提出者：15名 ○意見総数：50件

■ 検討会議の経緯

項目	概要	開催月
第1回	<ul style="list-style-type: none"> 関係団体などへのヒアリング、アウトリーチ、アンケートの実施概要について 平塚駅周辺地区将来構想(たたき台)について 	令和5年 (2023年) 6月
第2回	<ul style="list-style-type: none"> まち歩きの実施 平塚駅周辺地区での過ごし方のヒアリング結果について 第3章グランドデザインについて 第5章通り・エリアの将来イメージについて 	令和5年 (2023年) 11月
第3回	<ul style="list-style-type: none"> 平塚駅周辺地区での過ごし方についてのヒアリング結果 第3章 グランドデザインについて 第5章 通り・エリアの将来イメージについて 第6章 実現に向けてについて 	令和6年 (2024年) 3月
第4回	<ul style="list-style-type: none"> 平塚駅周辺地区将来構想(素案)について (仮称)平塚駅周辺地区アクションプランの策定に向けて 	令和6年 (2024年) 5月
第5回	<ul style="list-style-type: none"> 関係団体などへのヒアリング結果について 平塚駅周辺地区将来構想(素案)について (仮称)平塚駅周辺地区アクションプラン(たたき台)について 	令和6年 (2024年) 9月
第6回	<ul style="list-style-type: none"> 平塚駅周辺地区将来構想(素案)のパブリックコメントの結果について 平塚駅周辺地区将来構想(案)について (仮称)平塚駅周辺地区アクションプラン(案)について 	令和7年 (2025年) 1月

○ 検討会議 委員名簿

委員名	分野(所属)
梶田 佳孝	モビリティ・都市計画(東海大学)
後藤 純	高齢社会のまちづくり(東海大学)
野原 卓	景観・公共空間活用(横浜国立大学)
入江 彰昭	グリーンインフラ(東京農業大学)
三浦 詩乃	駅まちデザイン(中央大学)
白石 慎太郎	商業・工業(平塚商工会議所)
飯田 素子	駅ビル経営(株式会社 JR 横浜湘南シティクリエイト)
吉田 忠司	交通(東日本旅客鉄道株式会社)
早川 昌忠	交通(神奈川中央交通株式会社)
井上 雅己	交通(一般社団法人神奈川県タクシー協会)
市川 雅範	金融(平塚信用金庫)

■ 庁内策定委員会・部会の経緯

項目	概要	開催月
第1回	<ul style="list-style-type: none"> 平塚駅周辺地区将来構想の策定スケジュールについて 平塚駅周辺地区将来構想の検討体制について 市民アンケートの実施について 	令和4年 (2022年) 8月
第2回	<ul style="list-style-type: none"> 平塚駅周辺地区将来構想の将来像について アウトリーチの進め方について 	令和4年 (2022年) 11月
第3回	<ul style="list-style-type: none"> アウトリーチの実施結果について 事業者アンケートの実施結果について 学識経験者へのヒアリング結果について 平塚駅周辺地区将来構想（たたき台）について 	令和5年 (2023年) 4月
第4回	<ul style="list-style-type: none"> 平塚駅周辺地区での過ごし方のヒアリング結果について 第3章ランドデザインについて 第5章通り・エリアの将来イメージについて 	令和5年 (2023年) 10月・11月
第5回	<ul style="list-style-type: none"> 平塚駅周辺地区での過ごし方のヒアリング結果について 第3章ランドデザインについて 第5章通り・エリアの将来イメージについて 	令和5年 (2023年) 12月 令和6年 (2024年) 1月
第6回	<ul style="list-style-type: none"> 平塚駅周辺地区将来構想（素案）について 	令和6年 (2024年) 6月・7月

項目	概要	開催月
第7回	<ul style="list-style-type: none"> 関係団体などへのヒアリング結果について 平塚駅周辺地区将来構想（素案）について （仮称）平塚駅周辺地区アクションプラン（素案）について 	令和6年 (2024年) 10月
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 平塚駅周辺地区将来構想（素案）のパブリックコメントの結果について 平塚駅周辺地区将来構想（案）について （仮称）平塚駅周辺地区アクションプラン（案）について 	令和7年 (2025年) 2月

用語解説

序章 策定について

▶スマートシティ

デジタル技術やデータを活用し、市民一人一人に寄り添ったサービスの提供や地域が抱える諸課題の解決を行い、新たな価値を創造する都市のこと。

▶カーボンニュートラル

二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすること。

▶アウトリーチ

「手を伸ばす」という意味の英語から派生した言葉で、元は福祉の分野で公共機関などが、対象者のいる場所に積極的に出向き、働きかけること。将来構想では、議論の機会に加わることができなかった市民と職員が直接的に対話し、意見を聴き取る方法を指す。

▶オープンハウス

まちづくりに関するパネル展示を行い、広く市民などと意見交換を行う市民参加の手法。説明会のように時間を決めず、自由に参加できることが特徴。

▶平塚まちなか活性化隊

主に平塚駅周辺の商店街の若手店主たちで構成される平塚の駅前地域の活性化を目的に活動する団体。

▶ランドデザイン

将来構想のコンセプト「平塚駅周辺地区をみんなのリビングに」を実現するため、地区全体を見渡し、中心となるエリアを設定するなどメリハリのある整備を進めるための骨格を示すもの。

第1章 これからのまちづくり

▶南の核

平塚市都市マスタープラン(第2次)で示す平塚駅周辺の商業・業務機能が集積したエリアのこと。

▶湘南都市圏域

5市3町(平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町及び二宮町)で構成され「平塚都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(神奈川県により平成28年(2016年)11月策定)」に位置づけられる圏域。平塚駅周辺は地域特性を活かして圏域全体の自立をけん引する拠点づくりを進めることとされている。

▶コンパクト・プラス・ネットワーク

医療・商業施設など日常生活に必要な施設が、歩いて行ける範囲にまとまった拠点を地域ごとに形成し、各拠点に公共交通などで、誰もが簡単にアクセスすることができる都市構造のこと。

▶ウォーカブルなまちづくり

街路空間を車中心から人中心の空間へと再構築し、沿道と路上を一体的に使って、人々が集い憩い、多様な活動を繰り広げられる場へとしていく取組みなどにより、居心地が良く歩きたくなるまちづくりを進めること。

▶DX(デジタルトランスフォーメーション)

Digital Transformationの略(英語圏ではTransをXと略することが一般的な表記のため)。デジタル技術を活用することで、より便利で快適な社会へ変革すること。

▶IoT

Internet of Things(モノのインターネット)の略。様々なモノをインターネットでつなぐこと。

▶グリーンインフラ

道路沿いの緑地に雨水を浸透させるなど、自然環境が有する機能を社会の様々な課題解決に活用しようとする考え方のこと。

第2章 まちづくりのコンセプト

▶Eコマース

Electronic Commerce の略で、インターネット上で商品やサービスを販売すること。

▶地域資源

地域のまちづくりに活用できる伝統的なまちなみや歴史、文化、祭りなどの行事に加え、自然条件や風土、産業などの多種多様な有形無形のもの。

▶コワーキングスペース

主に個人で仕事を行うことが多い人同士で会議室、作業スペースなどを共有しながら仕事を行うことができ、利用者同士の交流や共同といったコミュニティ形成を促す場のこと。

第3章 グランドデザイン

▶都市機能

「居住機能」、「商業・業務機能」などの都市を構成する主要な機能のこと。

第4章 まちづくりの方針

▶リノベーション

既存の建物に改修工事を行い、性能を向上させたり、機能を変更し、付加価値をあたえること。

▶再開発・共同化

将来構想において、複数の敷地を共同化して空地などを創出しながら、建物の建替えを行う事業のこと。

第5章 通り・エリアの将来イメージ

▶ストリートファニチャー

道路や広場などに設置されているベンチや街灯、水飲み場、標識などの屋外装置物のこと。

▶モバイルフード

クレープやホットドッグなど手軽に食べ歩きができる食品のこと。

▶アダプト制度

身近な公共空間である道路、公園などの公共施設の美化および保全のため、市民が施設の里親となって、ボランティアで清掃活動などを行う制度のこと。

第6章 実現に向けて

▶デザインマネジメント

特定のエリアを単位に、民間が主体となって、まちづくりや地域経営(マネジメント)を積極的に行おうという取組みのことをエリアマネジメントといい、その取組みのひとつとして建物や道路、公園・広場などの都市空間のデザインを、使い方なども含めて検討していくこと。